

受賞報告



外科 臼井 秀仁 先生

日本小児血液・がん学会 令和6年度 大谷賞 受賞

「縦隔腫瘍組織採取時の全身麻酔・鎮静のリスクの検討と局所麻酔下腫瘍針生検の試み」



○第66回日本小児血液・がん学会学術集会にて受賞講演と表彰式が執り行われました。

受賞者からひとこと

実臨床で参考にして頂ける論文と評価頂け、歴史ある論文賞を受賞できたのは光栄でした。執筆・診療両面において血液腫瘍科、麻酔科、病理診断科、放射線科、外科の各先生方のご指導とご尽力に感謝いたします。

－概要－

縦隔腫瘍では診断のために全身麻酔・鎮静下に生検を必要とする事が少なくありません。しかし縦隔腫瘍患者の全身麻酔では、気道狭窄等から急激に呼吸循環不全が顕在化する危険性があります。本論文では縦隔腫瘍の生検における全身麻酔のリスク評価法を検証し、高リスク症例における生検手段として局所麻酔下の針生検の有効性と安全性を検討しました。

2012年～2021年に当院で縦隔腫瘍と診断し生検を行った21例を対象とし、後方視的な検討を行いました。全身麻酔下生検は13例で、全例で診断に至るも1例で合併症を生じました。局所麻酔下生検は8例で、全例で診断に至り、合併症は認めませんでした。全身麻酔によるリスク評価としては Mediastinal mass ratio (MMR)、% cross sectional area (CSA)、Blank リスク分類を検証しました。気道のみを評価する MMR や % CSA の有効性は低く、循環状態もリスク因子に含める Blank リスク分類が最も有効であると結論付けました。麻酔高リスク例では局所麻酔下の生検が望ましく、胸水穿刺等で診断が付かない場合には針生検が安全で有効な選択肢であると提案しました。



XX



遺伝科 永井 康貴 先生

第47回日本小児遺伝学会学術集会 優秀演題賞

「エクソーム解析陰性の精神運動発達遅滞における RNU4-2 バリエントの同定と臨床像」

受賞者からひとこと

通常、エクソーム解析はタンパク質をコードする遺伝子のエクソン領域が解析対象です。タンパク質にならない転写産物である RNA が働くノンコーディング RNA (ncRNA) をコードする領域は解析対象ではありません。2024年に精神運動発達遅滞の原因として ncRNA である RNU4-2 遺伝子が報告され、精神運動発達遅滞の原因として最多の可能性が示唆されました。本発表では当科で解析したエクソーム解析陰性の精神運動発達遅滞の方を対象に RNU4-2 遺伝子を追加解析してバリエントを同定し、バリエントと臨床症状との関連を報告しました。黒田先生をはじめ、多くの方のおかげで受賞することができました。ありがとうございます。



HCU2看護師 高橋 和彦 さん

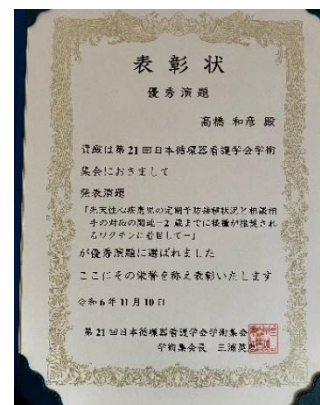
第 21 回日本循環器看護学会学術集会 優秀演題
「先天性心疾患の定期予防接種状況と相談相手の対応の関連
— 2歳までに接種が推奨されるワクチンに着目して—」

受賞者からひとこと

小児看護、循環器看護、感染症看護の発展に寄与できるように、
今後も看護研究に取り組んでいきたい。

—概要—

定期予防接種のスケジュールが過密となる2歳までにおける先天性心疾患児の定期予防接種率を母子健康手帳に基づき評価し、相談相手の対応によって定期予防接種率が異なるかを検討することを目的とした。方法は、母子健康手帳からの情報収集とアンケートを組み合わせた横断的観察研究である。2歳までに接種が推奨される定期予防接種8種類の接種状況を先天性心疾患児の養育者151名を対象として調査した。対象ワクチンをすべて接種できていた者は124名(82.1%)であった。相談相手の対応と定期予防接種率の関連では、保健師から十分な対応があったと回答した者は予防接種が未接種である傾向にあった(オッズ比 4.13:95%信頼区間 1.19-14.41)。一部の重症者は接種困難である可能性が考えられ、乳幼児期の急性期治療を行っている時点から医療者と養育者が事前に相談し、接種漏れがないように対応する必要性が示唆された。



2025 年度科研費についてのご報告

14 課題申請し、下記 6 課題が採択されました。

- 若手 黒田 友紀子 (遺伝科)
「先生天然変性領域(IDR)に起因する遺伝性希少難病の探索と病態解明」
- 若手 齊藤 央 (検査科)
「フォンタン術後患者の予後予測における包括的心臓超音波検査の臨床的重要性の検討」
- 若手 下風 朋章 (新生児科)
「LC-MS/MS による副腎ステロイドプロファイルを用いた超早産児の発達評価法の確立」
- 若手 永井 康貴 (遺伝科)
「ゲノム構造異常を伴う先天異常症候群の RNA 転写病としての疾患概念の確立」
- 基盤(C) 犬尾 千聡 (アレルギー科)
「アレルギー乳幼児に対する新規食事指導法:milk ladder の有効性・安全性の検討」
- 基盤(C) 成戸 卓也 (臨床研究所)
「日本人特異的なパンゲノムの構築によるゲノム構造異常に伴う遺伝子発現調節機構の探索」

発掘後記

桜の季節になりましたね。春号も様々な研究で活躍されました方々をご紹介いたしました。
臨床研究室では皆さまの研究活動の支援をしております。科研費に応募してみようと思っている方、今は研究をしていないけれど、科研費に興味がある方、職種は問いません。一緒に研究活動を盛り上げて研究の“ホットスポット”にしていきましょう！

はにわばあや、2月に人生初のぎっくり腰になりました。温泉で体を労わる日々を送っています。
ぎっくり腰の原因解明、治療法、温泉の効能、栄養ドリンク補給の効果、自分の身体を観察する毎日。

皆様からの発掘情報を臨床研究室までお寄せ下さい。お待ちしております。

臨床研究室の はにわばあや

はにわばあや ここ

